



# んだじゅ通信 Vol.3

## Contents

1. 副院長あいさつ
2. 放射線部の紹介
3. 最新の膝関節手術について
4. 泌尿器科の紹介
5. リハビリテーション科の紹介
6. 周産期用電子カルテの導入と  
周産期地域連携ネットワークの紹介
7. 医療安全管理研修会の開催について
8. FAX による診療予約について

山形県立新庄病院地域医療部  
平成26年6月発行

## 1. 副院長あいさつ 板垣孝知



### 「県立新庄病院における電子カルテシステムと 連携システムの現況について」

平成26年4月から、蘇先生、八戸先生、杉原看護部長の3人の副院長に加えて、新たに山田事務局長と私が副院長に任命されました。昨年12月に稼動した電子カルテシステム関連で新設された医療情報部長を兼任いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

このたびは、当院の電子カルテシステムと連携する各部門システム、地域連携システム等の現況についてご報告いたします。

院内の医療情報システムにつきましては、電子カルテシステムを中心に各部門システム（医事会計、薬局、検査、放射線、透析管理、栄養管理、リハビリテーション等）が連携しており、また、新規の部門システムとして、感染制御支援システム、医療安全管理システムを導入いたしました。有熟者の常時把握によるインフルエンザ等感染症の拡大防止、インシデント等の迅速な報告を行うことで、より一層の院内管理体制の徹底を図っております。また、栄養治療、褥瘡管理などチーム医療体制についても、電子カルテシステムのチーム医療連携機能を中心に、院内全体で連携する体制を構築しております。

最上地域医療情報ネットワークである「もがみネット」につきましては、画像管理システム（CT、MR、一般撮影、透視画像等）に加え、平成25年度には放射線科レポート、心臓カテーテル・血管造影、生理検査（エコー、心電図）、内視鏡レポートを公開対象といたしました。今年度も引き続き、公開情報項目を追加する方向で検討してまいります。

山形大学との連携につきましては、山形大学が「もがみネット」に参加しており、当院の患者情報の取得が可能となっております。また、昨年度は当院の山形大学地域連携医療情報ネットワークへの参加が決まり、ネットワーク機器の整備などを行いました。現在は、連携開始に向けて山形大学との情報公開範囲等について検討しております。

周産期医療情報システムにつきましては、昨年度末に導入を完了し、県立中央病院、山形大学、山形済生病院等とで構成される「周産期医療情報ネットワーク」に参加しました。当院の周産期カルテ情報を連携先の医療機関で閲覧が可能となり、ハイリスク妊産婦等の緊急搬送等において、迅速な情報提供が図られます。

医療情報管理部門は、縁の下の力持ちです。皆さんの協力を得て、個人情報保護を図りながら、地域での情報共有化の拡大等データ利用の運用管理、クリニカルパス作成等利便性の向上、ローカルルールを作らず統一した運用の継続を図るなど、継続的な運用体制を確立し、電子カルテおよび連携システムの有用性を高める予定です。今後ともご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



## 2. 放射線部の紹介



放射線科 放射線部長 大竹修一

放射線部は放射線科医師3名、診療放射線技師13名、医療クラーク1名、また放射線・内視鏡室の看護師9名で、エックス線撮影などの検査から画像診断、更には放射線治療までの診療に従事しています。

### 1. あいさつ

#### 「病診連携をより緊密に」

新庄病院に赴任して半年。25年ほど前に勤務していた頃とは大きく変わっており、まるで「浦島太郎」です。放射線部では、高価な機器が多く、技師もいい画像を出そうと努めているにも関わらず、検査件数の少ないモダリティがあり、「もったいない」と思っております。放射線治療や核医学などの部門も新しいチャレンジを行っておりますが、院内でも詳しく知らない職員が多く、残念なことだと感じております。

山形市などと比べると、開業されている先生からのCT、MRI等のスクリーニング検査が少ないと感じております。また、新庄病院で行える検査を、遠方まで赴いて受ける症例もあると聞いております。放射線治療部門では、来年度に新しい放射線治療装置が導入され、高精度な治療がスタートします。もっと病診連携の先生にも放射線部のことを知っていただき、自分のクリニックのレントゲン室のような気軽に利用していただける放射線部でありたいと思っております。

当院の放射線部が、より早く的確な診断に寄与でき、患者様に喜ばれる部門になれるよう努めていきたいと考えております。

## 2. 施設紹介

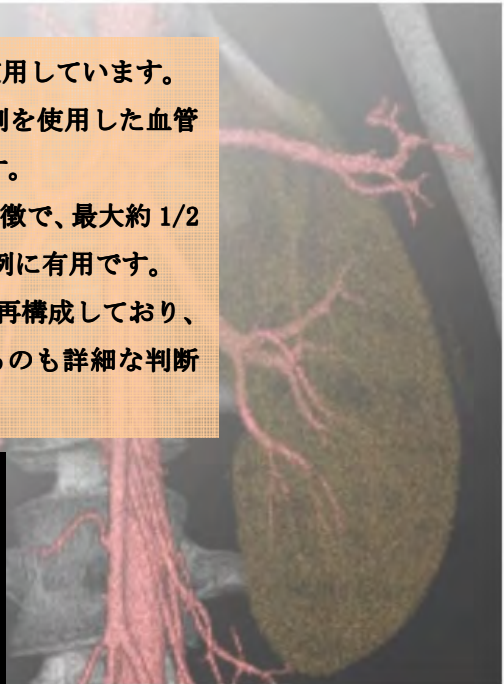
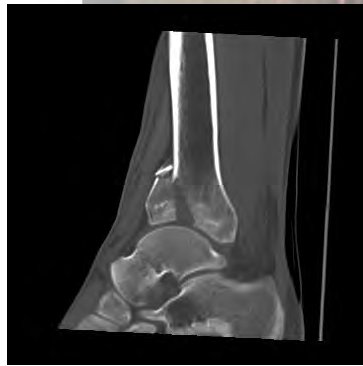
### CT 検査

当院では、東芝社製の 64 列と 16 列の MDCT 装置 2 台を使用しています。

64 列 CT 装置は、高速撮影と高分解能が特徴で、造影剤を使用した血管 3D-CTA や骨の 3D 作成、術前の精密検査等に使用しています。

16 列 CT 装置は、逐次近似再構成による低被ばく線量が特徴で、最大約 1/2 の線量で検査可能になり、小児や繰り返し検査が必要な症例に有用です。

また、両方とも、1 mm 厚の薄いスライスを全ての検査で再構成しており、画像ビューワから簡易に矢状断や冠状断の再構成ができるのも詳細な判断に役立ちます。

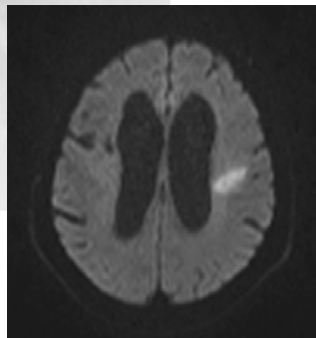
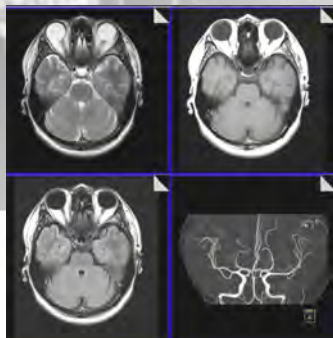


### MR検査

平成 24 年 3 月にシーメンス社製 1.5 テスラの MR 装置に更新し、昨年 11 月にソフトのバージョンアップを行いました。高画質な検査が短時間で得られることが特徴で患者負担も軽減されました。頭部や腹部、腰椎や膝関節などの幅広い検査を Powerful に対応しています。

当院では、早期アルツハイマー型認知症診断支援システム「VSRAD」による解析が可能です。

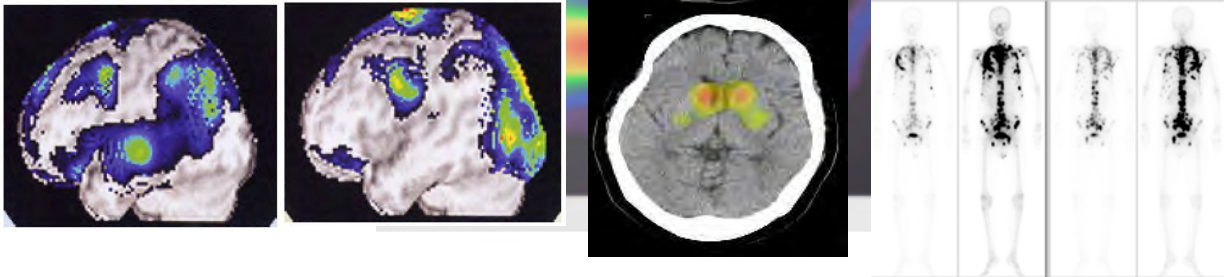
また、悪性腫瘍の有無を Check できる Body-Diffusion 撮影や、均一に広範囲の脂肪抑制が可能な DIXON 法や 0.5mm 未満の関節の構造物・病変を視察可能な 3D 撮像法など、新しい有益な撮像法も取り組んでいます。



## 核医学検査

放射性医薬品を投与し、診断・治療を行うものです。X線撮影や CT 検査など形体的な情報を得る検査法に対し核医学検査は機能的な情報を得る検査法であることが特徴です。当院は、シンチカメラと CT 装置を組み合わせたシーメンス社製 SPECT-CT 装置を使用しています。再現性が高く、高精度の画像が得られ病変と CT 画像との対比も可能です。解析ソフトも独自に工夫をこらして作成し、情報の多い検査を目指しており、精度もトップクラスです。

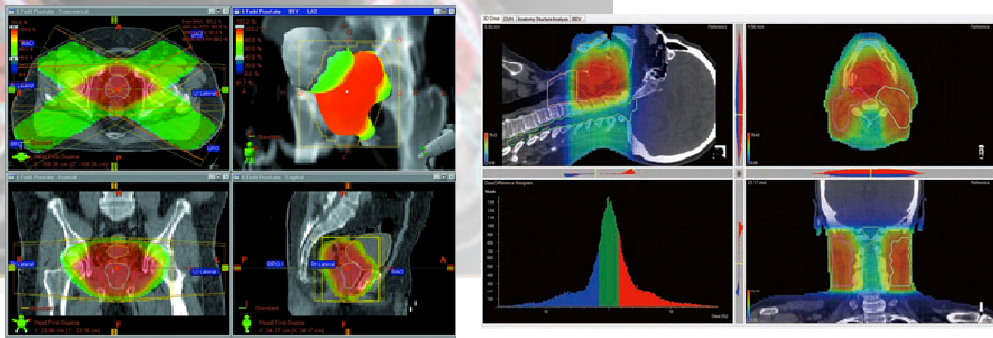
脳血流シンチでは脳神経細胞への血流分布から、アルツハイマー病やレビー小体型認知症等の診断に役立ちます。また、脳内のドーパミン分布を画像化する DAT スキャンも行えるようになり、パーキンソン病などの診断に役立ちます。心筋シンチでは心筋細胞への血流分布から、狭心症や心筋梗塞等によるダメージの状態が解ります。その他、骨、甲状腺、肺、腎臓、肝臓等の機能を調べることができます。



## 放射線治療

今日の放射線治療は技術革新と精密な機器の登場により、切らずに、正常な臓器・組織に影響を与えることなく、がん組織だけに高線量の放射線を照射し、効率よく治療できるようになりました。

当院では、X線の最高エネルギーが10MVの新しい装置を来年度中に導入する予定です。新しい装置ではIMRT（強度変調放射線治療）、IGRT（画像誘導放射線治療）、体幹部定位治療といった高精度放射線治療が可能になります。



# 3. 最新の膝関節手術について (Vol. 1)



整形外科医長 手術部副部長 浅野多間

## 1. 人工膝関節手術

近年、変形性膝関節症、関節リウマチ、膝骨壊死の患者様には人工膝関節置換術が行われています。その手術件数は年間 80,000 件におよび、今後も増加することが予想されています。全国に変形性膝関節症患者は 2,000 万人以上存在し、70 歳以上の男性 25%、女性 60%が罹患していると言われています。特に山形県最上地区は高齢者の割合が高く、膝関節疾患を抱えた患者様が非常に多く存在すると考えられています。



単純 X 線で大腿骨と脛骨の隙間の狭くなった患者様は保存療法（飲み薬、外用薬、注射、足底板、装具）で症状が軽快することは困難で、手術（関節鏡での手術、骨切り術、人工膝関節単顆置換術、人工膝関節全置換術）をおすすめします。人工膝関節手術は変性した軟骨、骨を切除して金属製の人工関節を挿入する手術ですが、同時に膝のアライメント矯正（O脚をまっすぐに治す）と軟部組織のバランスの調整、滑膜切除を行いますので、疼痛が緩和するだけでなく、膝の外観、スタイルがよくなり、歩行距離が伸び、健康状態、精神状態まで向上する効果があります。

最新の人工関節手術は約 1 時間程度で終了し、出血も少なく 3-4 週間で退院が可能です。より自然な膝関節に近づけるように、後十字靭帯を温存する人工関節を行っています。今後、当院では前十字靭帯までも温存する人工膝関節全置換術手術（XP TKA）を全国に先駆けて導入する予定です。コンピュータ支援手術のナビゲーション TKA や最小侵襲手術の対応も可能です。

また、変性が少ない患者様にはより侵襲が少ない（キズが 8cm くらいで筋肉を傷つけない）人工膝関節単顆置換術（UKA）も可能です。

膝がはれて痛くて、曲がってきた患者様は漫然とした保存療法を受けるよりは手術療法を選択することをおすすめします。

ぜひ県立新庄病院を紹介、受診して下さい。



## 4. 泌尿器科の紹介



泌尿器科 第二診療部長 安達裕一

長らく畑地康介医師による一人医師体制が続いていた当院泌尿器科ですが、昨年（平成25年）4月に私（安達）が当院に赴任してようやく医師が複数となりました。そして今年度はさらに舟形町出身の武藤明紀医師が新たなメンバーに加わり、当院泌尿器科としては約10年ぶりに3名の医師体制に戻ることができました。

これに伴い、かつては当院でも施行していたものの、その後は実施困難となっていた手術を再び行うことが徐々にできるようになって参りました。

具体的には、昨年からは前立腺肥大症や膀胱癌に対する内視鏡手術（TURP・TURBT）を本格的に再開しており、また今後は前立腺癌、腎癌あるいは腎盂尿管癌に対する全身麻酔による根治手術に対応し得る見通しです。昨年度は「前立腺癌疑い」の患者さんに対する「前立腺生検」の件数が89件と前年度と比べて倍増し、その結果54例の前立腺癌症例の検出に至りました（癌検出率：60.7%）。今後多くの前立腺癌根治手術の実施が期待されます。

また上部尿路（腎盂・尿管）の結石に対する内視鏡手術（TUL・f-TUL）についてもホルミウム・ヤグレーザー発生装置など最新の機器を整備し、今年度中には実施可能とする見込みです。これにより最上地域では受けて頂けなかった尿路結石の治療が可能となり、結石手術のため遠隔地の他病院への紹介を余儀なくされていた地域の患者さんのご負担も軽くすることができます。

今後のこの地域の医療に貢献すべく泌尿器科医師一同頑張っ参ります。よろしくお願い申し上げます。

# 5. リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科は科長（医師）、応援医師、理学療法士3名、あんま・マッサージ師1名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、嘱託1名の10名で、対象者の方それぞれに合わせたリハビリテーションを提供しています。

## リハビリテーションとは・・・

- ・リハビリテーションは病気や怪我により生じた障害に対し、身体的・精神的・社会的と多方向から関わることにより、これらの機能レベルを最適な状態まで向上させます。
- ・また、これを日常生活で維持するための方法を提供することを目標としています。
- ・当院は特に、最上地域の中核を担う基幹病院として、発症直後や術直後の急性期リハビリテーションへの取り組みも重点的に行っています。



リハビリテーション科スタッフ

## ◆ 各部門の業務内容

### 理学療法（PT）

起き上がる・座る・立つ・歩くといった基本的な動作の改善を図り、関節可動域訓練、筋力増強訓練などの運動療法や、温熱療法・水治療法などの物理療法を行います。必要に応じて、家族への介助方法の指導や義肢・装具の選定も行っています。

### 作業療法（OT）

上肢機能訓練や立位・坐位保持訓練を行います。また、様々な作業活動を通して日常生活動作・家事動作の自立度を高め、残存した障害に対しては利き手交換訓練や日常生活での工夫、補助具の使用についてアドバイスし、社会復帰を支援します。

### 言語聴覚療法（ST）

失語症や構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害の評価・訓練をしています。訓練室での言語訓練や高次脳機能訓練、間接的な嚥下訓練の他、病棟での食事介助を通して適切な食形態や姿勢の調整も行っています。

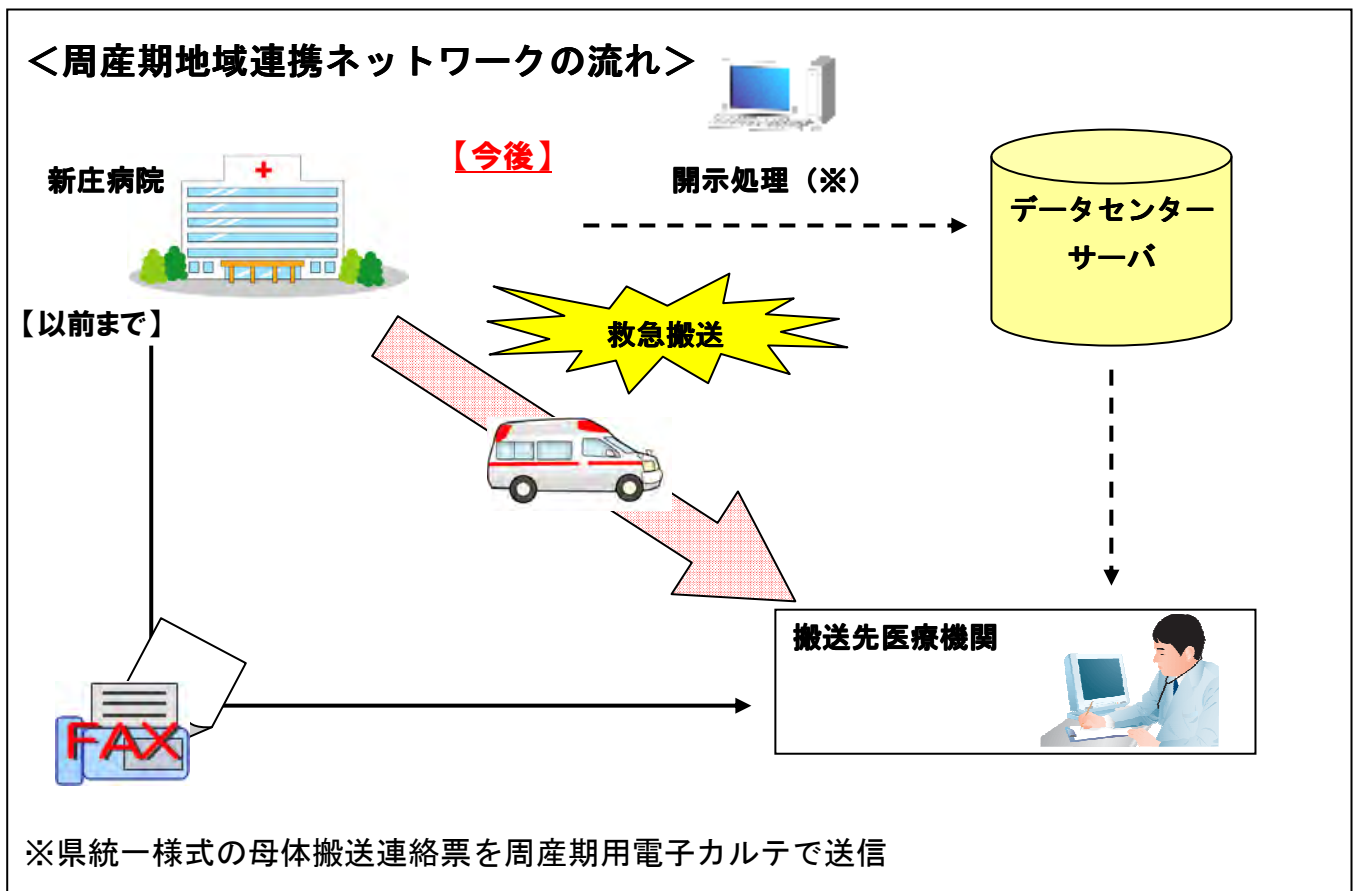


## 6. 周産期用電子カルテの導入と周産期地域連携ネットワークの紹介

当院では平成26年3月に産科診療に特化した周産期用電子カルテを導入しました。先行して稼動している基幹電子カルテと連携し、周産期の医療情報の管理に特化したシステムです。このシステムを最大限活用し、地域の妊産婦の皆様に対し、今後も安全、安心な周産期医療を提供してまいります。

また、周産期用電子カルテの稼動に合わせ、県内各医療機関で構築される「山形県周産期地域連携ネットワーク」に参加します。周産期用電子カルテで作成された診療情報は直ちにサーバに送られ、当院から最上地域外の三次周産期医療機関へハイリスク妊産婦の救急搬送等が生じた場合、開示処理を行うことによって、搬送先医療機関において当院のカルテを参照することが可能となります。

この「山形県周産期地域連携ネットワーク」への参加により、これまで以上に妊産婦に最適な治療を提供できることとなります。今後とも関係医療機関と連携し適切な運用に努めてまいります。



## 7. 医療安全管理研修会のご案内

医療安全の分野において大変ご活躍されている、名古屋大学医学部附属病院副院長の長尾能雅先生をお招きして、医療安全管理研修会を開催します。県立新庄病院以外の方々の参加をお待ちしております。参加ご希望の方は、6月10日（火）まで県立新庄病院 医療安全部（Tel: 0233-22-5525（内線1264））までご連絡ください。

☆演題 「院内における医療安全の活性化について」

☆講師 名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部  
副院長 教授 長尾能雅 氏

●日時 平成26年6月19日（木）17:30～19:00

●会場 山形県立新庄病院 C棟3階「大会議室」

## 8. FAXによる診療予約について

当院では、紹介患者さんの診療予約を円滑に行うために「FAXによる診療予約」を行っております。「FAXによる診療予約」を行いますと、患者さんの待ち時間が短縮されますので、ぜひご活用ください。

受付時間：平日 午前9時から午後4時30分まで（土、日、祝日、年末年始除く）

受付窓口：山形県立新庄病院 地域医療部

電話：0233-28-7276 FAX：0233-28-7277

◎ FAX受信後20分以内に予約結果をFAXでご連絡します。

留意点：①放射線検査（CT、MRI等）の予約はFAXではお受けできません。

放射線部の予約希望の検査室（0233-22-5525代）に電話でお申込ください。

②申込日当日の予約は、お受けできません。翌日以降の予約申し込みが可能です。

③受付時間外での申込はお受けできませんので、翌日以降の受付時間内に申し込みください。

④都合により、FAXによる診療予約を行っていない医師がおりますので、定期的に発行しております「山形県立新庄病院 外来診療医師 一覧表」をご確認ください。

当日持参するもの：①診療情報提供書（紹介状）、②健康保険証 ③診察券

④FAXによる診療予約確認書 ⑤お薬手帳

⑥公費負担受給者証 ⑦レントゲンフィルム等